

## P119b 変光に基づく前主系列星の探査

伊藤洋一, 富田堅太郎 (兵庫県立大学), 松永典之 (東京大学), 大朝由美子 (埼玉大学)

T タウリ型星は太陽程度の質量を持つ前主系列星であり、「おうし座分子雲」などの近傍の星形成領域で詳細な観測がなされている。現在までの探査観測では、質量降着に起因する  $H\alpha$  輝線や、原始惑星系円盤に由来する赤外線超過によって T タウリ型星が同定されてきた。

T タウリ型星には、上記の他に不規則変光という特徴もある。そこで我々は KISO GP プロジェクトのデータを用いて、この特徴を示す T タウリ型星を探査した。KISO GP プロジェクトは、東京大学木曾観測所の 1m シュミット望遠鏡を用いて銀河面を繰り返し撮像観測することによって、明るさに時間変動を示す天体を探査するものである。現在までの 4 年間に渡る観測の結果、ミラ型星などの晩期型星を多数発見した。

我々は、KISO GP の観測で不規則な変光を示し、かつ近赤外波長域で赤外線超過を持つ天体を選び、西はりま天文台の「なゆた望遠鏡」で可視分光観測を行った。その結果、いっかくじゅう座にある 6 天体で  $H\alpha$  輝線を検出し、これらが前主系列星であることがわかった。このうち 2 天体は近くに前主系列星や分子雲がなく、孤立して存在する。

講演ではこれらの前主系列星の特徴について述べ、これらがなぜ孤立しているのかを議論する。